Panasonic

施工説明書

マルチメディア ポート用
双方向CATV/UHF・BS・110度CSブースタ（8分配機能付）

品番 **WTJ6518**

■この製品の施工には、電気工事士の資格が必要です。
■施工前に必ずこの説明書をお読みください。
■取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。

この製品をCATV用としてご使用いただくには、あらかじめCATV会社様に確認が必要です。裏面のCATV会社一覧をご確認いただき、記載がない場合は、必要に応じてCATV会社様へご確認ください。

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠警告

禁止

●**電源用端子に、より線を半田仕上げして使用しない**
発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因になります。

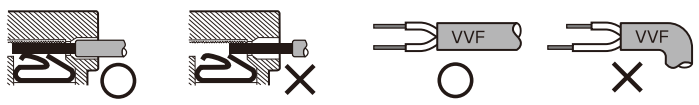
●**曲がったり、傷ついたり、変色した電線は使用しない**
発熱して火災の原因になります。

●**直射日光の当たる場所や発熱する器具の近くなど、温度の高くなる場所には設置しない**
熱がこもり、火災や焼損、故障の原因になります。

●**油飛び・蒸気があたる場所や湿気が多い場所（調理台のそば、浴室など）、水のかかる場所（屋外など）、ほこりの多い場所には設置しない**
火災や感電、故障の原因になります。

必ず守る

●**結線するときは、電線を端子の奥まで確実に差し込む**
差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因になります。



施工上のご注意

●テレビ、ラジオなどの家電製品が置かれる場所には設置しないでください。
受信障害や通信障害の原因になることがあります。
●電源線と同軸ケーブルの配線・配管が接触しないように施工してください。
●入出力端子の接続は確実に行ってください。
●入出力ケーブルは、たばねたり、重ねたり、壁内へ無理に押し込んだりしないでください。
●電源線の絶縁抵抗測定をするときは、電源線をはずしてください。
●施工中、電源スイッチを必ず「切」にしてください。
●CATVの場合、接続およびブースタの利得調整・スイッチ設定はCATV会社指定の施工業者にご依頼ください。

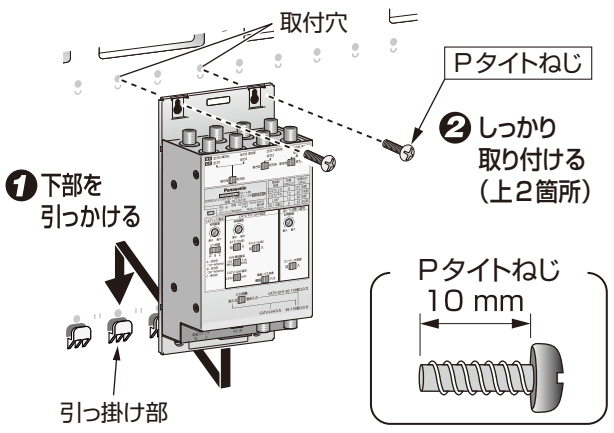
付属品

●タッピンねじ……4本
●タップタイトねじ……2本
●Pタイトねじ……2本
●施工説明書（本紙）……1枚
●取扱説明書……1枚
●F型コネクタ……10個

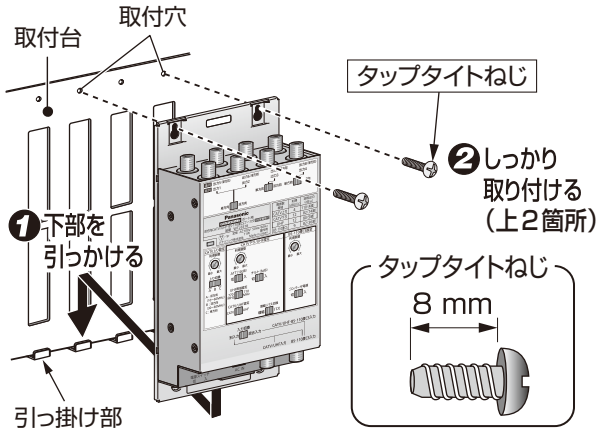
※マルチメディア ポートに内蔵されている場合、ねじは付属しません。

取付方法 （マルチメディア ポートに内蔵されている場合、この作業は不要です。）

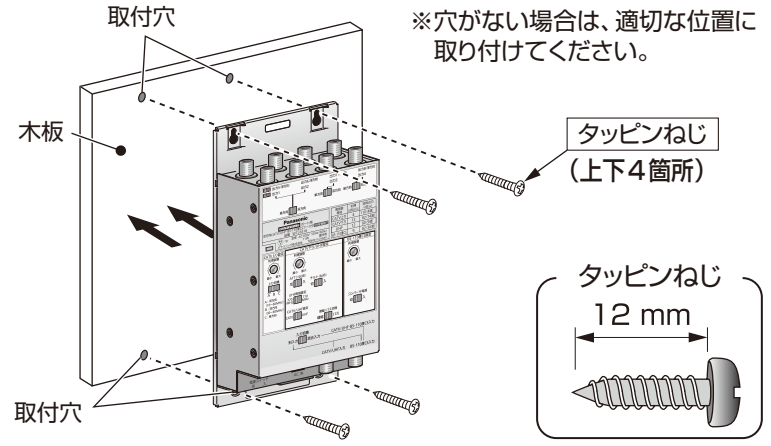
■マルチメディア ポートALL、マルチメディア ポートSの場合



■ボックスセット（WTJ5002）の取付台の場合



■ボックスセット（WTJ5003、WTJ5004）の場合



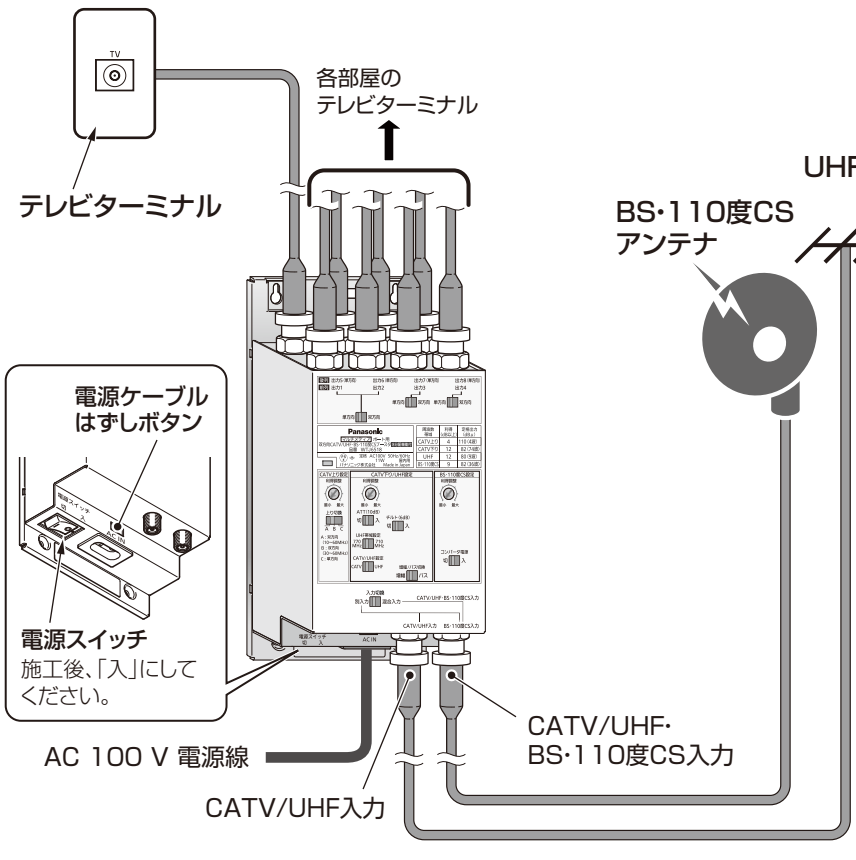
接続方法

※出力端子数を超えるテレビターミナルを設置する場合は、出力とテレビターミナルの間に分配器［別売］を入れてください。
※空き端子には必ずダミー抵抗で終端してください。

■配線図

UHF・BS・110度CSの場合

ご注意 ●BS・110度CSアンテナは、110度CSデジタル放送とBSデジタル放送が受信できる共用アンテナです。スカパー! HD放送は受信できません。

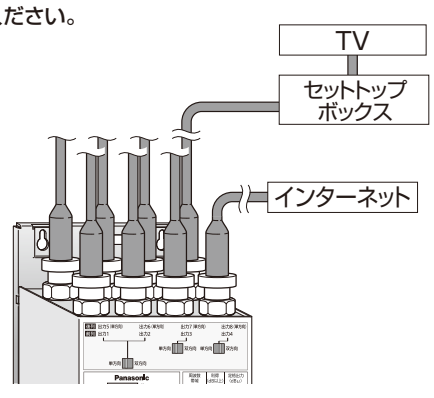


■配線最遠長 約 60 m

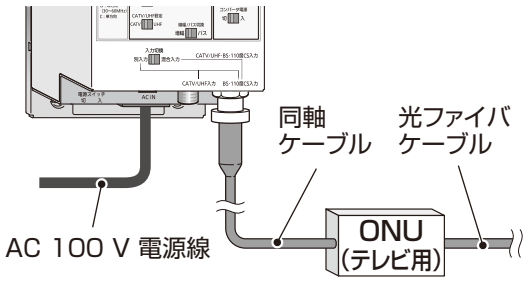
※CATV（双方向）の場合のみ配線最遠長が約30 mになります。
※実際の配線最遠長は出力レベルの設定や妨害受信によって異なります。

CATVの場合

●双方向機器は、必ず出力端子1～4に接続してください。



光ファイバの場合

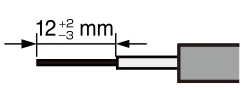


AC 100 V 電源線

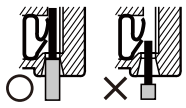
■**適用電線** φ1.6 mm φ2 mm Cu（銅）単線専用

■**結線方法**

❶ 電線被ふくをむく



❷ 奥まで差し込む

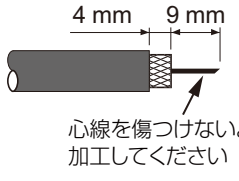


同軸ケーブル

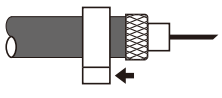
■**適用ケーブル** S-5C-FB

■**加工方法**

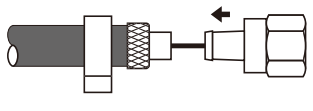
❶ 段むきをする



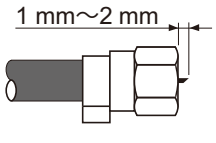
❷ 編組線を折り返して付属のリングを通す



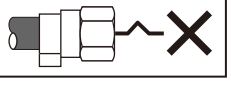
❸ 付属のコネクタを挿入する



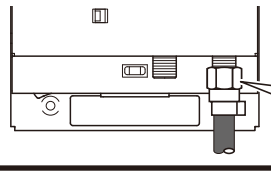
❹ リングをかしめ、心線を切断する



ご注意 心線が長すぎる場合は、短絡や端子内部が破損するおそれがあります。



■**締付けトルク**



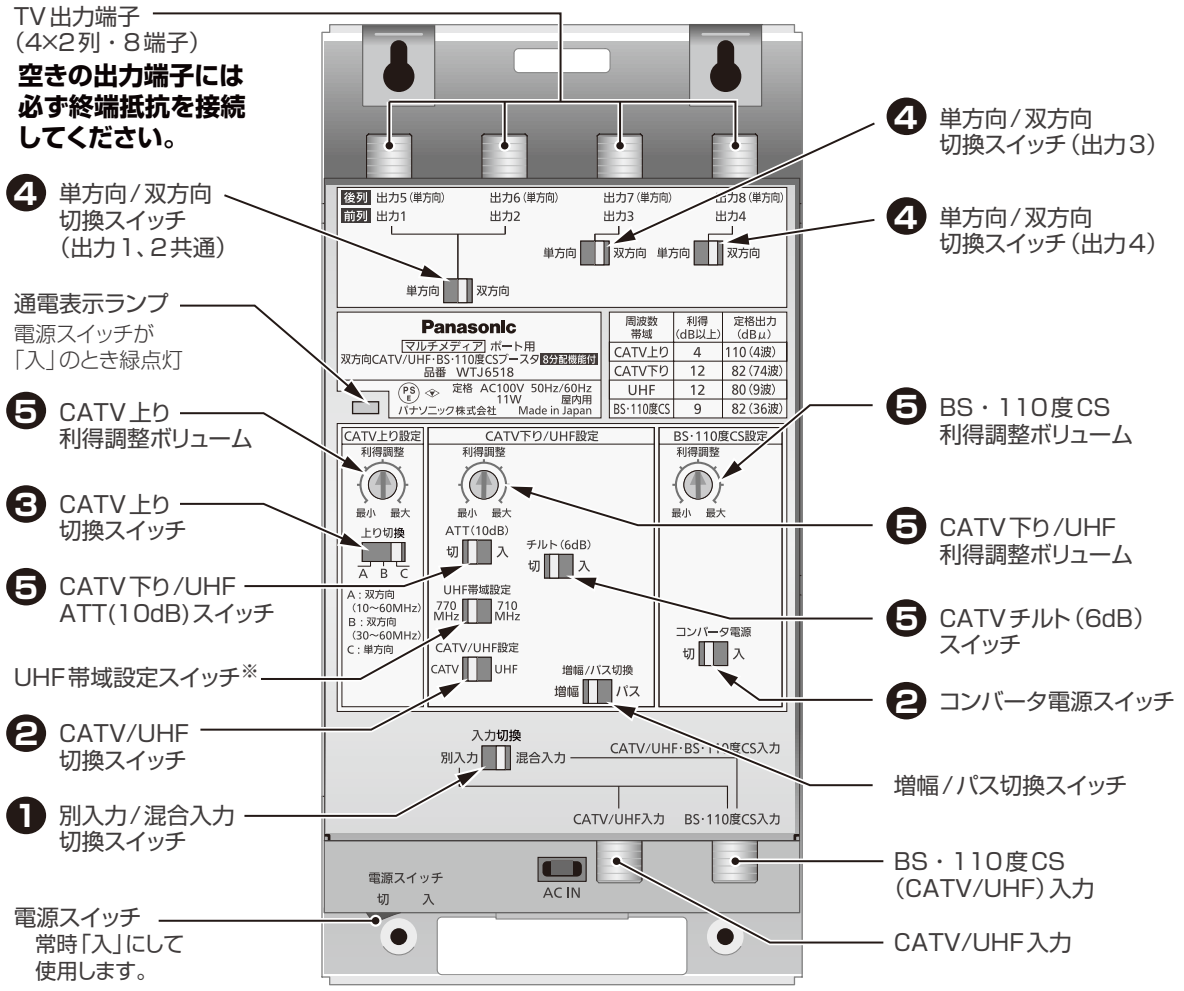
F型コネクタの適正締付けトルク
1 N·m～2 N·m

設定と調整

各部のなまえと設定方法

ご注意 ●本製品を設置しても、デジタル放送受信器に表示される「アンテナレベル」や「受信レベル」の数値（指標）が変わらない場合、また下がる場合がありますが、製品の不具合ではありません。
※「アンテナレベル」や「受信レベル」はアンテナの方向調整を目的とした機能で、受信CN比の換算値を表しています。電波の強さを表すものではありません。

出力5 ～ 8は単方向専用です。



※ご使用いただくときは、770 MHzで使用してください。
将来的には、現在使用している周波数が変わります。UHF帯域設定スイッチを710 MHzへ切り換えてください。
(2012.7月現在)

CATVをご使用の場合

1. 別入力/混合入力切換スイッチを入力信号線別（混合/別入線）に設定する　別入力 ▮▯ 混合入力
注）BS・110度CSをアンテナ入力する場合は、別入力にしてください。
2. CATV/UHF切換スイッチを「CATV」にする　CATV ▮▯ UHF
3. CATV上り切換スイッチを
▶ **TVサービスでご利用の場合**　「単方向C」にする　上り切換 A B C
▶ **インターネットなどの双方向サービスでご利用の場合**
CATV会社のサービスに合わせてA、Bどちらかにする　上り切換 A B C
A：双方向（10 ～ 60 MHz）　B：双方向（30 ～ 60 MHz）
4. 出力端子1 ～ 4の単方向/双方向切換スイッチを
▶ **TVサービス機器を接続する場合**　「単方向」にする　単方向 ▮▯ 双方向
▶ **双方向機器を接続する場合**　「双方向」にする　単方向 ▯▮ 双方向
5. 利得調整ボリュームやスイッチをレベルメーターやTV画像を見ながら調整する
※下記の「調整方法」をご覧ください。

アンテナをご使用の場合

1. 別入力/混合入力切換スイッチを入力信号線別（混合/別入線）に設定する　別入力 ▮▯ 混合入力
2. ▶ **UHFを受信の場合**
CATV/UHF切換スイッチを「UHF」にする　CATV ▯▮ UHF
▶ **BS・CSを受信の場合**
コンバータ電源スイッチを「入」にする　切 ▮▯ 入
3 4 設定不要
5. 利得調整ボリュームやスイッチをレベルメーターやTV画像を見ながら調整する
※下記の「調整方法」をご覧ください。

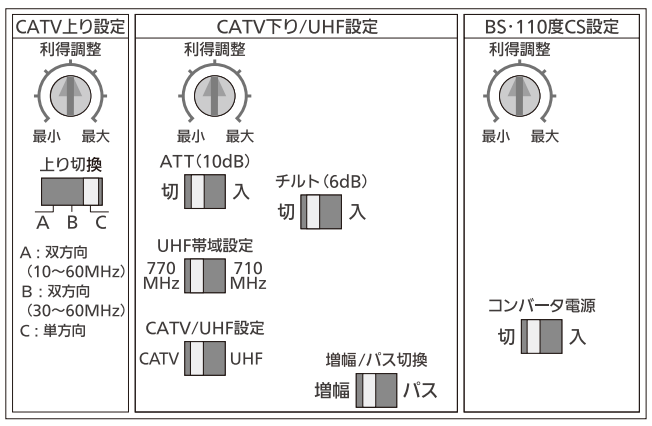
光ファイバをご使用の場合

1. 別入力/混合入力切換スイッチを「混合入力」にする　別入力 ▮▯ 混合入力
2. CATV/UHF切換スイッチを「CATV」にする　CATV ▮▯ UHF
3 4 設定不要
5. 利得調整ボリュームやスイッチをレベルメーターやTV画像を見ながら調整する
※下記の「調整方法」をご覧ください。

調整方法

アッテネータスイッチ利得調整ボリューム

〈出荷時の設定〉



鮮明な映像を得るためには、テレビターミナルの出力レベルが54 dBμ以上になるよう、利得調整が必要です。

CATV/UHFの場合

ブースタの入出力レベルを確認して、適切なレベルに調整してください。

●入出力レベルが大きすぎるとテレビ画面にモザイク状のノイズが入ることがあります。
注）UHF帯レベルが大きすぎると、BS帯に影響することがあります。

●入力レベルが適正入力範囲の上限値を超える場合は、ATT（10 dB）スイッチを「入」にして利得調整ボリュームを調整してください。それでも上限値を超える場合は、増幅/パス切換スイッチを「パス」に設定してください。

●同軸ケーブルでの高域の減衰が大きい場合は、チルト（6 dB）スイッチを「入」にしてください。

BS・110度CSの場合

BS・110度CSアンテナの設置後、アンテナのコンバータ部にブースタから電源を供給する場合は、コンバータ電源スイッチを「入」にしてください。

双方向CATVブースタ接続確認済CATV会社一覧（2012年7月現在）

株式会社ジュピターテレコム（J-COM）（全国）※
旭川ケーブルテレビ株式会社（北海道）
青森ケーブルテレビ株式会社（青森）
岩手ケーブルビジョン株式会社（岩手）
株式会社遠野テレビ（岩手）
水沢テレビ株式会社（岩手）
宇都宮ケーブルテレビ株式会社（栃木）
佐野ケーブルテレビ株式会社（栃木）
テレビ小山放送株式会社（栃木）
入間ケーブルテレビ株式会社（埼玉）
行田ケーブルテレビ株式会社（埼玉）
ケーブルテレビJCN埼玉株式会社（埼玉）
狭山ケーブルテレビ株式会社（埼玉）
蕨ケーブルビジョン株式会社（埼玉）
株式会社JCN船橋習志野（千葉）
株式会社千葉ニュータウンセンター（千葉）
イッツ・コミュニケーションズ株式会社（東京、神奈川）
JCN大田（東京）
株式会社JCNコアラ葛飾（東京）
株式会社ケーブルテレビ足立（東京）
株式会社ケーブルテレビジョン東京（東京）
多摩ケーブルネットワーク株式会社（東京）
株式会社多摩テレビ（東京）
東京ケーブルネットワーク株式会社（東京）
豊島ケーブルネットワーク株式会社（東京）
日野ケーブルテレビ株式会社（東京）
株式会社JCN横浜（神奈川）
湘南ケーブルネットワーク株式会社（神奈川）
浜松ケーブルテレビ株式会社（静岡）
LCV株式会社（静岡）
株式会社テレビ松本ケーブルビジョン（静岡）
株式会社アイ・シー・シー（愛知）
株式会社CAC（愛知）
知多メディアスネットワーク株式会社（愛知）
知多半島ケーブルネットワーク株式会社（愛知）
豊橋ケーブルネットワーク株式会社（愛知）
スターキャットケーブルネットワーク株式会社（愛知）
西尾張シーエーティーヴィ株式会社（愛知）
ミクスネットワーク株式会社（愛知）
株式会社アイティーヴィー（三重）
伊賀上野ケーブルテレビ株式会社（三重）
株式会社シー・ティー・ワイ（三重）
株式会社ZTV（三重）
株式会社アドバンスコープ（三重）
株式会社新川インフォメーションセンター（富山）
射水ケーブルネットワーク株式会社（富山）
高岡ケーブルネットワーク株式会社（富山）
となみ衛星通信テレビ株式会社（富山）
金沢ケーブルテレビネット株式会社（石川）
株式会社テレビ小松（石川）
福井ケーブルテレビ株式会社（福井）
株式会社嶺南ケーブルネットワーク（福井）
株式会社ベイ・コミュニケーションズ（大阪・兵庫）
株式会社テレビ岸和田（大阪）
株式会社甲賀ケーブルネットワーク（滋賀）
株式会社明石ケーブルテレビ（兵庫）
BAN-BANテレビ株式会社（兵庫）
姫路ケーブルテレビ株式会社（兵庫）
岡山ネットワーク株式会社（岡山）
株式会社倉敷ケーブルテレビ（岡山）
株式会社中海テレビ放送（鳥取）
日本海ケーブルネットワーク株式会社（鳥取）
山陰ケーブルビジョン株式会社（鳥取）
株式会社アイ・キャン（山口）
Kビジョン株式会社（山口）
株式会社テレビ鳴門（徳島）
宇和島ケーブルテレビ株式会社（愛媛）
株式会社ハートネットワーク（愛媛）
高知ケーブルテレビ株式会社（高知）
株式会社メックケーブレッジ（福岡）
株式会社ケーブルテレビジョン島原（長崎）
大分ケーブルテレコム株式会社（大分）
株式会社ケーブルメディアワイワイ（宮崎）

（記載以外にも確認済の会社がある場合がありますので、必要に応じてお問い合わせください。）

※ご使用に際しては事前に株式会社ジュピターテレコム様までご連絡ください。

定格・仕様

項目 ＼ 伝送周波数帯域 [MHz]		CATV上り	CATV下り	UHF	BS/CS—IF
		10(30)※2～60	70～770	470～710(770)	1000～2602
伝送チャンネル数		4波	74波	9波	36波
定格出力レベル [dBμV]	総合	110	82	80	82
	増幅回路部（参考値）	(110)	(95)	(93)	(100)
適正入力範囲[dB] ※1		—	—	54～65(85)	54～65(80)
利得[dB]	総合	4以上	12以上		9以上
	増幅回路部（参考値）	(20相当)	(30相当)		
通過帯域損失（パス設定時）[dB]		—	23.5以下		—
利得調整量[dB]		0～−10以上（連続可変）			0～−15以上（連続可変）
アッテネータ量[dB]		—	0、−10切換		—
チルト調整量[dB]		—	6 dB/70 MHz ※3	—	—
雑音指数[dB]		20以下	10以下		7以下
2次相互変調[dB]		−60以下		—	—
3次相互変調[dB]		—	—	−68以下	−59以下
複合3次歪（CTB）[dB]		—	−60以下	—	—
混変調[dB]		—	−56以下	—	—
ハム変調[dB]		−60以下			−50以下
電圧定在波比		2.5以下			
入出力インピーダンス[Ω]		75			
電源		AC100 V 50 Hz/60 Hz			
コンバータ供給電圧		DC15 V（最大4 W）			
定格消費電力		11 W（コンバータ電源4 W供給時）			
寸法		H200 mm×W100 mm×D52.5 mm			

※1 適正入力範囲の（ ）内は利得最小時、入力アッテネータ入時を記載。ただし、BS-IF/CS-IFは利得最小時の値を記載
※2 上り帯域切換時　※3 770 MHzを基点とした70 MHzでのチルト量
●本製品は110度CSデジタル放送の右旋円偏波受信に対応しています。

施工後の点検
必ず点検してください。

□ 電源線は奥まで差し込まれているか
□ 同軸ケーブルの入出力端子への接続に誤りはないか
□ F型コネクタは各端子と適切な締付けトルクで接続されているか
□ 電源スイッチは「入」になっているか

パナソニック株式会社　パワー機器ビジネスユニット
〒514−8555　三重県津市藤方1668番地
© Panasonic Corporation 2012
8A3 F24 0000 2
DC0612DC11206